

# 夏本番 出来上々

## 天候良く生育順調

### 小千谷すいか組合

7月中旬、「小千谷すいか組合」が、スイカの本格的な出荷シーズンを迎えました。日量約3000玉が出荷され、総出荷量は約2万7000玉を見込み、8月

下旬まで続きます。

初出荷の7月13日には、JA片貝野菜集出荷場で目合わせ会を開きました。生産者や市場、JA関係者ら25人が集まり、出荷規格や今年の出来を確認しました。同組合の今井信一組合長は「天気に恵まれ生育は順調

だ。例年通りの高品質に仕上がっている」と分析。JAの谷口熊一組合長は「最後の1玉まで収入につなげてほしい」と激励しました。

市場関係者は、情勢を「6月下旬〜7月上旬は、天候不順で気温が上がらなかつたため、スイカの動きは鈍かったが、天気が一变し、動きが良くなってきた」と説明しました。

組合では生産者18人が365㍓で、肥沃（ひよく）な土壌と昼夜の寒暖差を生かして栽培をしています。今年「夏のぜいたく」と「祭ばやしRG」の2品種の試作に取り組み、導入を検討していきます。

## 適期収穫を

### 小千谷園芸組合

7月中旬、JAのメロン生産組織「小千谷園芸組合」で、本格的なメロンの出荷が始まりました。JA千谷野菜集出荷場には、ピーク時には日量約1000㍓（1㍓6キ）が出荷されます。8月10日ごろまでで、総出荷量は約2万4000㍓を見込みます。

同園芸組合では、生産者21人が、露地とハウスを合わせて306㍓で栽培に取り組んでいます。品種は「ウカ」「タカミ」「マリナー

ジュ」「ボクの夏」。ミツバチを使った自然交配や、減農薬栽培などを行っています。

7月17日には、同集出荷場で「タカミ」の目合わせ会を開きました。生産者や市場、JA関係者ら30人が参加。試し切りを行い、15度以上の糖度を確認しました。同園芸組合の永野敏行組合長は「ほとんどのメロンで、出荷できる糖度を認めてきた。天気を見て、適期収穫に努めてほしい」とあいさつしました。



▲スイカの出来を確認する生産者



▲出荷規格を確認する生産者と市場関係者

## 圃場巡回で生育確認

### 小千谷トマト出荷組合

小千谷トマト出荷組合は6月下旬に、JA千谷野菜集出荷場でトマトの目合わせ会を開きました。生産者や市場、JA関係者ら7人が参加。今年の出来を確認しました。併せてトマトの圃場も巡回し、生育状況を確認しました。

今年は降雪の影響で、定植が平年より1週間ほど遅く、本格的な出荷は6月下



▲圃場で生育状況を確認する生産者と市場関係者

旬から始まりました。8月下旬まで続く予定です。ピーク時は日量約140㍻(1

㍻3キ)が出荷され、総出荷量は約3500㍻を見込みます。

同組合の細貝喜代志組合長は「今年は天気が良く、奇形果が少ない。生育は順調に推移している」と話しました。

組合では、生産者2人が三仏生と小栗田の30㍻で栽培。品種は「華クイン」です。



▲形状や色沢を確認する生産者と市場関係者

## 11月上旬まで出荷

### 小千谷ナス部会

小千谷ナス部会は7月上旬に、JA千谷野菜集出荷場でナスの目合わせ会を開きました。生産者や市場、JA関係者ら11人が参加。品質や形状などの出荷規格を共有しました。

今年の定植は平年通りの5月中旬で、本格的な出荷は7月中旬から始まり、11月上旬まで続く予定です。ピーク時は日量約120㍻(1㍻5キ)が出荷され、総出荷量は約4500㍻を見込みます。

見込みます。

同部会の和田一徳部会長は「5月、6月と天気が良かったため、平年に比べ生育が早く、出荷も早まった。6月の強風の影響もなく、美味しいナスに仕上がっている」と話しました。部会では、生産者6人が三仏生の30㍻で栽培。品種は「大福丸」です。

## ユリ1万9000本出荷

### おぢや花き組合

おぢや花き組合は、7月中旬に、JA千谷野菜集出荷場で季咲栽培ユリの目合わせ会を開きました。生産者とJA関係者5人が集まりました。

同組合では、7月中旬から下旬に出荷する「季咲栽培」と、10月上旬から11月上旬に出荷する「抑制栽培」の二つの作型に取り組んで



▲ユリの出荷作業に追われる生産者

います。季咲栽培ユリは、7月12日〜26日の間に約1万9000本が出荷されました。今季のユリは輪付きが良く、丈も長く、順調な生育を見せました。同組合の和田庄一郎組合長は「花葉色ともに市場の求める状態になった」と話しました。部会では、生産者4人が三仏生の72㍻で栽培。品種は「カサフランカ」「シベリア」「ソルボンヌ」「シーフ」「ブルレスカ」です。



▲ラジオ番組「おぢやファンファンチャンネル」で、ひなたさん(前後列左)と一緒にスイカとメロンのPRをするJA職員(前後列右)